検　地

あらゆる会戦というものには、一つには曲制（軍隊の編成区分・編制）、一つには地形、これら二つから優劣や勝敗を決定づける状態がある。或いは通地というものがあり、或いは絶地というものがある。高峻の地があり、嶮隘の地があり、広地があり、狭地があり、原野があり、河川があり、田沢がある。又、用兵の利に応じて名づけられた地がある。あるいは掛地といい、支地といい、争地といい、散地といい、軽地といい、重地といい、囲地といい、死地といい、生地といい、交地といい、遠地といい、近地といい、竪地といい、横地という。

その中で通地というのは、四方八方に交通が発達している土地である。絶地というのは、四方が隔絶していて往来の便がない土地である。高峻の地というのは、山や坂、険しい嶺、あるいは日当たりのよい高地のような土地である。嶮隘の地というのは、非常に険しくて通行が阻害されるような隘路であり、大軍を用いることが困難な土地である。広狭の地というのは、例えば戦場となり得るような、あるいは田野や街外れの野原のように開闊していて自由に機動できるのが広である。草木がこんもりと茂っていて機動に支障があるのが狭である。又、支地というのは、そこを出てしまうと利を失うので、しっかり保持しておくべき土地である。掛地というのは、往路は容易であるが帰路には困難を伴う土地である。争地というのは、互いにそこを取れば有利であるために争奪し合う土地である。散地というのは、兵たちがその背後に便利や安全を求める心が有るために逃げ散り易くなる土地である。軽地というのは、兵が敵との境界を越えてまだ遠くないため容易に還ることができることから、心が固まらずに浮つくような土地である。重地というのは、敵国内に深く入り込み、還ることが困難なため兵たちが逃げ散ることがほとんどない土地である。囲地というのは、敵国に深く入り込んで四面を皆囲まれてしまった場合のように、脱出が困難な土地である。死地というのは、出入進止が皆途絶し、それゆえに死を覚悟して戦う土地である。生地というのは、すなわち勝利を得られる土地である。交地というのは、敵味方が互いに交

わっての往来が自由にできる土地である。遠地というのは、相互に遠く離れて軍を対峙させており、往来に労力を要する土地である。近地というのは、敵と味方が近くで対峙していることである。竪地や横地というのは、縦横の方向にその権（状況を急変させて、にわかに勝敗を決定づける決め手）を操ることにより、自らが地形のようになることである。

そうであれば、四方八方に通じる土地を支配する者は、四方に善隣友好の交わりを修めて援勢を展開し、敵人の虚に乗じてその多くの事を計略するのである。絶地を支配する者は、専ら人民の心情を掴むことに勉め、情報網を張りめぐらせる。処女の如くおとなしくしていながら、脱出するときはたちまち脱兎の如く一挙に行動する。困難な場所において戦う時は更に奇計を考えよ。大人数の軍勢を率いる者は広い土地を執り、少人数の部隊を率いる者は狭い土地を執る。掛地ではむしろ退き、支地ではそれゆえに進み、争地なるがゆえにこれを与える。散地にあっては益々軽快に、軽地にあってはいつも心を固まらせず浮つかせ、重地に赴くには心が重くなることを予期し、囲地にはなお敵のために囲まれてやる。死地にあっては生地であるかのように示し、生地にあっては死地であるかのように示す。交地を支配する者は、迂回と直進をそれぞれ交え、遠いときには来るようにさせ、近いときには逃れさせる。縦方向で交叉する相手であれば、これを横方向に向けさせ、横方向で接触するならば、こちらの思うままに縦方向に向けさせる。私はいつでもそうだとは言わないながらも、昔の人の心を師として、その書残された言葉を宿して師としない者は、伝えられてきたように、昔の戦での勝利を説明するならば、昔の戦術を用いてすればよいのであって、今でもそのまま通用するものではない。これに反してそうであっても必ず思いを回らせて智恵を新たにするのみである。地形というものは全て不動不変・不移不濶と云えども、寸権・尺術・方擬・円略、これらを以て勝劣・向背・得失・存亡・往来・主客・変形（態勢の変化）・瞬時のことを把握して、これを有しているときには軍の微妙、どうして一端のみであると言えようか。深く思い審らかに了せよ。